![MCj03209260000[1]]()

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・筆算を利用して，2けたのわり算をすることができる。

○既習とつなぐ見方・考え方

・4年「計算の見積もり」で，概数を用いて加減乗除をしても，正しい答えと近い値を求められることを経験している。

教材研究ノート№6-A-5

≪学習問題≫

子ども会193人で，貸し切りバスを4台

借りると，160190円かかります。1人分の

バス代を何円集めればよいでしょうか。

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

②見通し: 160190÷193をすれば求められるが，計算がたいへん。

→　わられる数やわる数を概数にして計算すれば，1人分のおよ　　　　　そのバス代が求められそうだ。

②学習課題: わられる数やわる数を概数にして計算し，1人分の

およそのバス代を求めよう。

1000円や1500円と定価を決めて計算し，半額の20%引きと，20%引きの半額ではどちらが安いか確かめよう。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

③個人追究：概数の表し方を考えながら，バス代を求める。

→「わられる数は上から２けた、わる数を上から１けたの概数にし

　　て計算しよう。」

　「160190は切り捨てで160000だ。193は切り上げで200だ」

　「160000÷200＝800　800円だ」

④共同追究前半（解法の比較検討）

「概数で見積もったバス代と，正しいバス代830円を比べて，どんなことがいえそうかな？」

→「わられる数を上から2けた，わる数を上から1けたの概数にしても，正しい値との差は50円以内ですむ。」

④共同追究後半（思考を深める）

「160000÷200で求めたバス代を合計すれば，実際のバス代の合計金額に足りるのだろうか？」

→「合計金額を切り捨て人数を切り上げたので，実際の合計金額には足りない。」

「合計金額に足りるように見積もるには，合計金額を切り上げ，人数を切り捨てないといけない。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・わられる数を上から2けた，わる数を上から1けたの概数にして，商を上から1けたの概数にすれば，正しい商に近い値が求まる。

・切り上げや切り捨てによって，正しい値より大きくなったり小さくなったりするので，気をつけないといけない。

⑥定着･活用問題

わられる数とわる数を四捨五入で概数にして，次のわり算の商を見積もりましょう。また，見積もった商が，正しい商より大きいか小さいかを判断しましょう。

(1) 2784÷32　　(2) 5712÷48

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・前時の積の見積もりの方法を想起させながら，概数の表し方をいろいろ変えて，正しい値との差に着目させたい。

・集金などの現実の場面では，見積もりの結果が正しい値より小さくなっては困る場合もあることに気づかせ，およその値として見積もった結果を現実の場面で活用する際に気をつけなければならないこともあわせて指導したい。